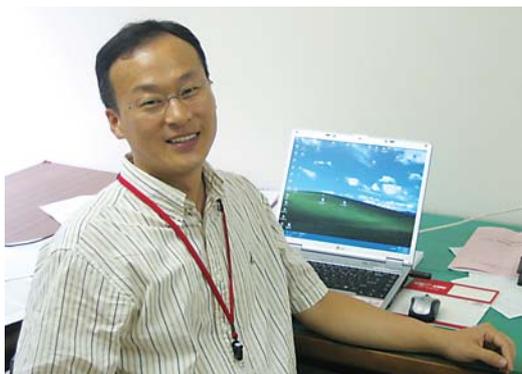




外国人研究職員の紹介

Prof. Dae Hong Jeong from South Korea



韓国ソウル国立大化学教育学科の Dae Hong Jeong (鄭大泓) 准教授は、客員研究教育職員日韓枠で、2010年6月から8月と、12月から2011年2月に滞在予定である。Jeong 准教授はソウル大で学位取得後、韓国と米国で博士研究員としての経歴を経て、ソウル大に戻り、現在に至っている。Jeong 准教授と筆者は5年ほど前に知り合い、断続的に共同研究を行ってきた。Jeong 准教授は研究の背景として、表面増強ラマン散乱 (SERS) の機構解明と、その特に生物試料への応用を念頭に置いた研究を得意としており、様々

な貴金属微粒子を基本要素としたラマン増強金属ナノ構造を作成している。この分野では世界的にもよく知られた、気鋭の研究者の一人である。これまで Jeong 准教授の研究室で用意した金属ナノ構造を分子研に持ち込み、筆者らの研究室で近接場イメージング測定を行って、増強電場の空間情報を得るという共同研究を行ってきた。今回 Jeong 准教授が客員としてまとまった期間滞在されるので、この共同研究がより強力に推進できるものと期待している。

Jeong 准教授の本国での現所属は化学教育学科であるが、自身が同学科の出身であり、物理化学の先端研究のみならず、化学教育にも造詣が深い。ソウル大での彼の研究室の中には化学教育を専門として研究している学生も数名在籍していると聞く。中・高等学校の教育課程にも興味をお持ちで、研究を進めておられる。また高等学校等が休暇のシーズンには、理科教員を対象とした、先端的研究

の現場と成果を紹介するプログラム等も行っているとのことで、まさに化学教育のプロである。日本のスーパーサイエンスハイスクールの事業にも大変興味を持っておられる。

そのようなバックグラウンドも手伝ってか、Jeong 准教授は大変温厚で親しみやすい人格の持ち主である。岡崎に既に数回にわたり滞在しているほか、何度も来日しており、日本の食事也大変気に入っておられる。特に駅前の某寿司店は、店員が賑やかで外国人にも非常に親切と、お好みのものである。好きな日本の食べ物は「ミソトンカツ」との答えであった。趣味は、と尋ねたところ、「そのような質問は学部学生時代以来のような気がする。ウーン、」と考えた後、「昔はバスケットボールをしていたけど、もう永らくやっていません。スポーツの観戦は好きだけど。今現在は、散歩が趣味かなあ。」とのことであった。道端で歩いておられるのを見た時には、声をかけて頂ければ気さくに話に乗って来られるかと思う。

(岡本 裕巳 記)